

平成30年度
吹田市第2次環境基本計画改訂版に係る
環境施策の実績集約・自己評価
【内部評価】（修正箇所抜粋版）

この冊子の位置づけ

平成30年度の吹田市第2次環境基本計画 改訂版に係る環境施策の実績及び進捗状況と市による自己評価をまとめたものに、事前に審議会委員の皆様からいただいた御意見を反映したものを抜粋しています。

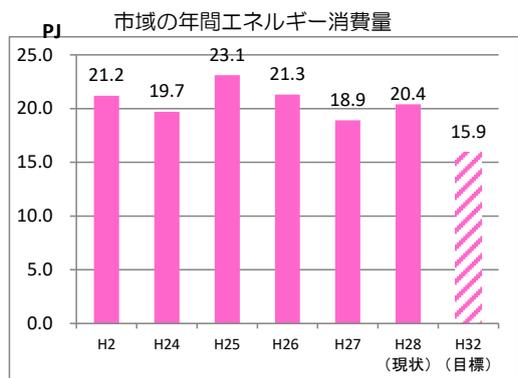
II 目標ごとの進捗状況と評価

1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換

(1) 代表指標

進捗状況（市域の年間エネルギー消費量：全体、家庭、業務）

評価



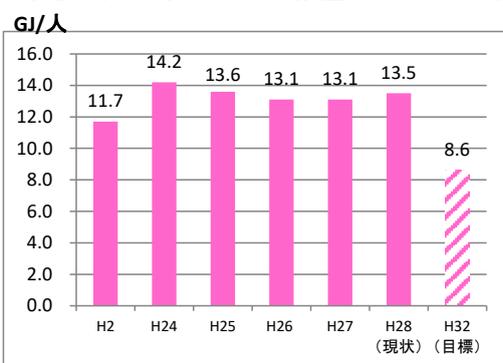
全体：B 家庭：B 業務：B

見解

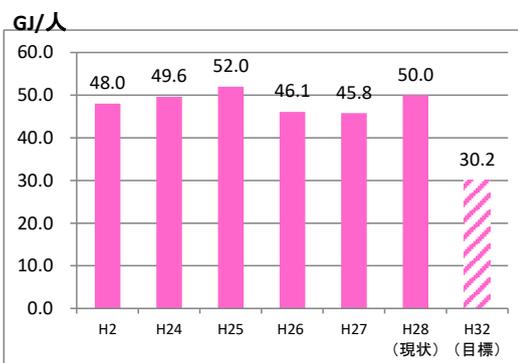
エネルギー消費量については、平成23年度（2011年度）の原発事故の影響による電力需給の逼迫に伴う節エネルギー意識の向上等により減少傾向にあったが、平成28年度（2016年度）においては、暑夏となった気候の状況等により、家庭部門及び業務部門で増加しており、産業部門においても、エネルギー消費量の大きい鉄鋼業等の製造品出荷額の増加により、増加している。今後さらに、家庭・事業所における節エネルギー等の取組を促し、環境意識の向上を図る必要がある。

※エネルギー消費量の算出は統計データ集約の関係により2年遅れとなる。

家庭部門の年間エネルギー消費量（市民1人当たり）



業務部門の年間エネルギー消費量（従業員1人当たり）



(2) 指標

進捗状況

指標	評価	H28年度	H29年度	H30年度	目標値	見解
市域の年間温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	△	(H26年度) 2,123	(H27年度) 1,873	(H28年度) 2,036	1,315	昨年度と比べて、市域の年間エネルギー消費量が増加したため、排出量は増加している。
公共施設における再生可能エネルギー導入件数 (累計) ^{※1}	○	72	76	81		平成26年9月8日開催の本市環境施策調整推進会議において、施設や設備の新設及び大規模改修時には、特段の事情がない限り、再生可能エネルギーを導入すること並びに既存の施設においても、可能な限り、積極的に再生可能エネルギーの導入を図ることを決定した。このことを踏まえ、今後も積極的な再生可能エネルギーの導入を促進する。
上段：件数 下段：施設数		42	45	50		
吹田市役所の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	△	81	77	77	59	排出量は横ばいとなっている。目標値達成のためには、LED照明やペアガラスの導入など、庁舎のグリーン化に取り組む必要がある。
市域における太陽光発電システム導入件数累計及び設備容量 ^{※2}	○	3,099	3,246 ^{※3}	3,441	4,000	固定価格買取制度の開始（平成24年（2012年）7月）により、年々、太陽光発電システムの導入が進んでいる。また、大規模な太陽光発電設備の導入により、1件あたりの設備容量は増加傾向にある。
上段：件数 下段：設備容量 (kW)		15,305	18,082 ^{※3}	19,117	22,000	

【※1】令和元年度の実績調査において、把握漏れの設備があることが判明したため、平成30年度以前に公表した数値の変更を行っています。

【※2】平成28年（2016年）3月策定の吹田市地球温暖化対策新実行計画（改訂版）において、指標及び目標値等の見直しを実施したため、平成26年度以前に公表した数値の変更を行っています。

【※3】平成30年10月に平成30年3月末時点での国の設備導入状況の公表があったため、数値の変更を行っています。

第2次環境基本計画改訂版 平成30年度重点プロジェクトの実績一覧(H31.3.31現在)

重点プロジェクト	取組内容	平成29年度の実績 (参考)	平成30年度の実績	自己評価	担当室課の見解など	担当室課	関係室課
（エコスクール）の環境教育の推進	① 環境教育等促進法に基づく環境教育の充実 ・教材の開発や情報の提供 ・教職員の資質向上に向けた研修等の実施 など	・環境教育担当者を2回実施。第1回担当者会で企業等の出前授業やサービスについて紹介した。第2回担当者会で、国・府からの伝達、各校の取組交流を実施した。	・環境教育担当者を2回実施。企業等の出前授業やサービスについての紹介や、国・府からの伝達、各校の取組交流を実施した。成果や課題について交流し、教職員の資質向上も図った。	△	・年2回の担当者会をより充実なものにしていくための、情報収集と周知に努める。	指導室	環境政策室 指導室 資産経営室
	② 太陽光発電、太陽熱利用など再生可能エネルギーの導入	【吹田市立江坂大池小学校】太陽光発電 10kW を導入 【吹田市立豊津中学校】太陽光発電 10kW を導入 【吹田市立はぎのきこども園】太陽光発電 5.4kW を導入	なし	△	平成30年度は太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入実績がないが、引き続き小中学校に太陽光発電の導入を進めていく。	資産経営室	
	③ みどりのカーテン、ピオトープ、ミニ水田などの実施	・みどりのカーテン11校で実施。 ・ピオトープを19校で実施。 ・学童農園を20校、校内ミニ水田を11校、バケツ稲を3校で実施。	・みどりのカーテン11校で実施。 ・ピオトープを17校で実施。 ・学童農園を20校、校内ミニ水田を13校、バケツ稲を5校で実施。	△	・今後もNPO法人や農家の方々等と連携し、取組実施校の増加に努める。	指導室	
	④ 校内物品のリサイクル、生ごみ等の減量化・堆肥化	・エコスクール活動簿を活用し、節電・節水・両面印刷・ごみの分別等を意識づけ、環境教育担当者にて各校におけるエコスクール活動の実情を交流し、成果、課題、進捗状況報告を行い、取組の推進を促した。	・エコスクール活動簿（環境の取組チェックシート）を活用し、全小・中学校54校において、児童・生徒、教員のエコに対する意識の向上を図った。各校の実情を環境教育担当者会で交流し、取組の推進を促した。	△	・年々エコの意識化が進んでいる。エコスクール活動簿の取組を推進し、今後も引き続き啓発していく。	指導室	
	⑤ 環境学習副読本等の活用	・引き続き環境教育副読本を全小・中学校54校に配置している。	・引き続き環境教育副読本を全小・中学校54校に配置している。	△	・引き続き環境教育副読本を全小・中学校54校に配置している。	指導室	
	⑥ 環境教育の場の充実	・NPO法人やリサイクルプラザと連携した体験的な活動や、学校での取組を発表する場を設定した。また、出前授業を提案することで、充実した環境教育を提供できた。	・NPO法人や（公財）千里リサイクルプラザと連携した体験的な活動や、学校での取組を発表する場を設定した。出前授業の紹介を4月に行うことで、見通しのある環境教育を提供できた。	△	・環境教育に取り組む専門性の高い機関及び地域等の人材について情報収集に努める。	指導室	